

保険・年金 フォーカス

新型コロナウイルスの感染拡大が 保険会社に与える影響(2) —欧州大手保険 G の 2020 年第 2 四半期公表による—

常務取締役 保険研究部 研究理事

ヘルスケアリサーチセンター長 中村 亮一

TEL: (03)3512-1777 E-mail: nryoichi@nli-research.co.jp

1—はじめに

米国や欧州においては、7月下旬から8月にかけて、2020年の第2四半期の業績発表が行われてきている。4月下旬から5月にかけて行われた2020年の第1四半期の業績発表については、保険年金フォーカス「[新型コロナウイルスの感染拡大が保険会社に与える影響\(1\)—米国大手保険 G 及び大手再保険 G の 2020 年第 2 四半期業績発表による—](#)」(2020.5.22) 及び「[新型コロナウイルスの感染拡大が保険会社に与える影響\(2\)—欧州大手保険 G の 2020 年第 1 四半期公表による—](#)」(2020.5.27) で報告した。

今回の業績発表は、新型コロナウイルス (COVID-19) の感染拡大が本格化した時期に対応するものであるだけに、各社の実際の COVID-19 の影響の程度や今後の動向をどのように見ているのかについて、引き続き不確実性が高い要素が多いものの、第1四半期に比べればより具体的なデータに基づいた判断等が行える状況になっている。

今回は、こうした米国や欧州の保険会社の第2四半期の業績発表の中から、大手保険グループの COVID-19 の影響等に関する公表内容について、2回に分けて報告している。まずは、[前回のレポート](#)では、米国大手保険グループ及び大手再保険グループの状況を報告した。今回のレポートでは、欧州大手保険グループの状況を報告する。

2—欧州大手保険 G の公表内容

ここでは、欧州大手保険 G から、AXA、Allianz、Generali、Aviva、Aegon 及び Zurich の状況について報告する。

1 | AXA

AXA は、その 2020 年第 2 四半期の業績発表¹において、COVID-19 について、「COVID-19 の請求：

¹ https://www.axa-com.cdn.axa-contento-118412.eu/www-axa-com%2F42f022db-8f5d-4035-bf12-34832bd24cb5_axa_pr

2020年の基礎利益への推定影響額は15億ユーロで、上半期に計上された」とした。

Thomas Buberl CEOは、「2020年上半期、AXAは、COVID-19のパンデミックという厳しい状況の中で、回復力を示した。売上高は2%減少して520億ユーロとなった。これは、第1四半期の力強い成長が、第2四半期の事業活動の低迷により相殺されたことを反映している。」と述べた。また「当グループの基礎利益は19億ユーロ（対前年同期48%減少、以下同様）であり、COVID-19の請求²及びEquitable Holdings (EQH)の売却を除くと1%増であった。AXAの収益に対するCOVID-19の影響は、以前発表されたガイダンスに沿ったものだった。AXA XLをはじめとする商業ラインが最も大きな影響を受けたが、その他のグループは回復力があり、COVID-19の請求による影響は、自動車の請求頻度の低下と、医療&資産管理の成長によってほぼ相殺された。」と述べた。さらに「COVID-19のパンデミックは、社会を保護し、経済回復を支援する上での保険の重要な役割を示している。この信念は、『重要なものを保護することによって人間の進歩のために行動する』という私たちの新しい目的に組み込まれている。」と述べた。

各項目への影響等については、例えば以下の記述（抜粋）が行われている。

(1) 収入

総収益は、第1四半期の大幅な成長(+4%)とCOVID-19の関連での第2四半期の減少(▲10%)を反映して、2%減少した。上半期の収益の減少は、(i)主に第2四半期のCOVID-19の影響によるフランスと欧州での一般勘定貯蓄の売上減少が大きい生命保険&貯蓄(▲8%)、(ii)主に殆どの地域でのロックダウン期間中の新契約活動の減少及び特にAXA XLでの大幅な価格上昇を伴う安定した商業ラインが、COVID-19の関連での規模の減少によって相殺されたことによる個人保険の減少(▲2%)を反映した損害保険(▲1%)、が、(iii)全ての地域での成長による医療保険(+9%)、及び(iv)資産管理(+3%)の管理対象の平均資産の増加によって一部相殺された。

(2) 収益

基礎収益は48%減少して19億ユーロになった、これは主に、(i)COVID-19関連の請求による損害保険(▲72%)、(ii)主としてCOVID-19の関連での障害補償の延長と年金割引率の低下にリンクした生命保険&貯蓄(-9%)、(iii)強い収入成長を反映した医療保険(+7%)、及び(iv)2019年のEQHの非連結化の影響、によるものである。15億ユーロのCOVID-19請求とEQHの連結除外の影響を除くと、基礎利益は1%増加した。

(3) Ambition 2020 targets

COVID-19が2020年の基礎利益に与える重要な影響の概算に関し、AXAは、Ambition 2020のソルベンシーII比率とフリー・キャッシュ・フローを維持したものの、1株当たり基礎利益、調整後自己資本利益率の目標を取り下げている。

[20200806.pdf](#)

² 「COVID-19の請求」には、P&C、L&S、医療保険のCOVID-19関連の純請求額、ならびに連帯措置及びCOVID-19に関連する費用控除後の少量の影響が含まれる。「COVID-19の請求」には、COVID-19危機に関連する金融市場への影響（投資証拠金、ユニットリンク手数料、資産運用手数料等への影響を含む）は含まれていない。

2 | Allianz

Allianz は、その 2020 年第 2 四半期の業績発表³において、COVID-19 について、「COVID-19 危機は、最も深刻な経済・金融市場の混乱を引き起こした。金融市場は 2020 年第 2 四半期に持ち直したが、景気回復は依然として脆弱である。しかし、Allianz は、その十分に分散された事業ポートフォリオと強固なバランスシートによって、現在の危機をうまく切り抜けており、2020 年の第 2 四半期には堅実な結果を達成した。継続的な不確実性のため、2020 年の営業利益の見通しは現時点では公表していない。」と述べた。

為替及び連結の影響を調整した内部収益の成長は、主に生命/医療保険事業セグメントにより牽引され、2020 年第 2 四半期には 7.7%減少した。総収入は 6.8%減少の 309 億ユーロ（前年同期は 332 億ユーロ、以下同様）、営業利益は 18.8%減少の 26 億ユーロ（32 億ユーロ）となった。損害保険事業セグメントにおいては、COVID-19 関連損失の計上や営業投資の減少により、営業利益は 17.4%減少した。生命/医療保険事業の営業利益は、2019 年の一時利益が好調であったことを主因として減少したが、持ち直しの動きとなった。資産運用事業は、手数料の減少などにより営業利益は減少したが、堅調に推移した。

また、第 2 四半期累計ベースでは、売上高は 735 億ユーロで横ばいだった。営業利益は 20.5%減の 49 億ユーロ（61 億ユーロ）となり、COVID-19 は保険事業の営業利益に大きなマイナスの影響を与えた。損害保険は、引受及び営業投資の結果が減少した。生命/医療保険事業は、2019 年の一時黒字化と投資利益率の低下により、営業利益は減少した。AuM（管理資産残高）主導の増収により、資産管理事業の営業利益は増加した。

COVID-19 による営業利益への上半期での影響は 12 億ユーロと推定され、損害保険事業で 8 億ユーロ、生命/医療保険事業で 4 億ユーロとなっている。資産管理事業では、第三者資産のアウトフローが第 1 四半期では多かったが、第 2 四半期の強いインフローで一部相殺されて、上半期では 210 億ユーロのアウトフローとなった。

営業利益の内訳(第2四半期)

(単位:百万ユーロ)

	損害	生命・医療	資産管理	コーポレート	グループ全体
①2020年第2四半期	1,143	991	640	▲204	2,565
②2019年第2四半期	1,383	1,231	678	▲131	3,159
③ ①-②	▲240	▲240	▲38	73	▲594
COVID19の影響	▲400	▲100	-	-	▲500

(参考)営業利益の内訳(第1四半期)

(単位:百万ユーロ)

	損害	生命・医療	資産管理	コーポレート	グループ全体
①2020年第1四半期	1,032	819	679	▲228	2,962
②2019年第2四半期	1,455	1,096	573	▲164	2,304
③ ①-②	▲423	▲277	+106	▲63	▲658
COVID19の影響	▲400	▲300	-	-	▲700

今後の見通しについて、Oliver Bäte CEO は、「パンデミックは、あらゆる業界にとって引き続き

³ <https://www.allianz.com/content/dam/onemarketing/azcom/Allianz.com/investor-relations/en/results/2020-2q/en-ir-release-2q-2020.pdf>

課題となっている。それにもかかわらず、Allianz は 2020 年上半期に堅調な業績を達成し、目覚ましい回復力を示しており、2020 年下半期にも堅調な業績を達成できると確信している。」と述べた。

3 | Generali

Generali は、その 2020 年第 2 四半期の業績発表⁴において、COVID-19 について、「前例のない状況で、COVID-19 のパンデミックによるマクロ経済及び財務への大きな影響があり、グループの半年の結果は回復力のある業績を示し、堅実な資本ポジションを確認している。」と述べた。

また、Philippe Donnet CEO は、次のようにコメントした。

「今年上半期の業績は、グループの戦略の妥当性、そのビジネスモデルの強固さ、及びこれらの前例のない状況に直面することを可能にした Generali の卓越した技術を裏付けている。グループの主要な優先事項の 1 つは、臨時国際基金やその他の取り組みを通じて、COVID-19 の影響を受けるコミュニティをサポートすることだった。また、ビジネスと運営構造の革新とデジタル変革を加速することにより、この困難な瞬間に対応した。さらに、持続可能な成長を追求しながら、規律ある効果的な方法で Generali 2021 戦略を実行し続けた。」

グループの純利益は、金融市場のパフォーマンスに関連する投資に対する正味減損 2 億 26 百万ユーロ、BSI の売却に関する仲裁和解のための 1 億 83 百万ユーロ及びパンデミック緊急事態のための臨時国際基金への 1 億 2 千万ユーロの寄付を反映して、7 億 74 百万ユーロ（対前年同期で▲56.7%、以下同様）だった。COVID-19 の臨時国際基金の一時的な費用を除いた調整済純利益は、10 億 32 百万ユーロ（▲21.2%）だった。

営業外損益の▲9 億 41 百万ユーロ（上半期は▲5 億 88 百万ユーロ）は、投資（売却可能金融資産）に対する 2 億 50 百万ユーロの減損、グローバルな COVID-19 の発生による影響を受けた金融市場の状況の結果、ならびにスイスにおける当社の生命保険事業ののれんに関連する 93 百万ユーロの減損を反映している。減少は、またグループが立ち上げた臨時国際基金の設立のための 1 億ユーロの営業外費用によるもので、さらに、54 百万ユーロは、地域のイニシアティブへの資金提供にも割り当てられ、COVID-19 パンデミック非常事態の間の救援活動を支援した。2019 年に開始され、2020 年に継続している債務削減戦略に牽引されて、金融債務に対する利子の貢献はプラスだった。

また、プレス資料の中では、「COVID-19 の開示」の項目において、以下のように述べられている。

「COVID-19 パンデミックは、グループの様々な事業セグメントに影響を与えた。

生命保険セグメントでは、ユニットリンク商品は、株式市場のボラティリティに続いて、新契約の成長の鈍化を記録した。貯蓄事業は、新契約の減少と解約の増加を記録した。顧客による保険補償の需要の高まりのおかげで、保障契約は部分的にのみ影響を受けた。

技術的な収益性に関しては、これまでのところ、影響は軽微である。

損害保険セグメントについては、3 月から 6 月にかけて、新契約と更新が特に影響を受けた。ロックダウンの影響により、自動車、企業、中小企業の保険料が減少した。自動車の請求は 3 月に減少したが、自動車以外のビジネスでは、一部のライン（例えば、キャンセルされた旅行の払戻しなど）の

⁴ <https://www.generali.com/media/press-releases/all/2020/Consolidated-Results-as-of-30-June-2020-Press-Release>

コストが上昇した。当グループは、危機の最悪のヒットセクターの1つであるイベント中止というビジネスにさらされていない。

資産管理セグメントは、パンデミックの影響をダブルに受けた。資産ベースの手数料は、株価の低下と確定利付証券（BTP 及びその他の周辺政府証券を含む）の減少に続き、さらに一部の投資家からの流出があった。

Generali は、新しい補償とサービスで商品の範囲を拡大し、ロックダウン環境を管理するために契約条件を適応させることにより、変化する事業環境に対応した。さらに、グループはオンライン販売と顧客支援を提供するためにデジタル化のプロセスを加速した。グループは、当局と政府が顧客と代理店のネットワークの両方に要求したものを超えて、財政的支援を提供した。Generali は、全ての国、特に自動車ライン、で顧客を保護するための対策を講じ、下期にも継続して実施する。資産管理セグメントでは、Generali は、ローンポートフォリオの品質を継続的に監視し、保険ポートフォリオのリスクを引き受ける能力を再評価し、流動性を慎重に管理して解約リスクの増加に対処することにより、顧客と保険契約者を保護するために迅速に対応した。

これらの状況を考慮して、COVID-19 のパンデミックにより、グループの業績は約▲84 百万ユーロの悪影響を受けたと推定されている。特に、前述の金融市場環境を考えると、主に投資純利益の低下が原因で、生命保険事業は合計で▲225 百万ユーロの影響を受けたと推定されている。また、損害保険事業は、87 百万ユーロのプラスの影響を受けたと推定されている。パンデミックに直接関連している請求数の増加と現在の収入の減少は、グループが活動する主要国でのロックダウンの結果として、年の最初の6 月に記録された請求の減少により相殺された。

最後に、COVID-19 危機に対応してグループが実施した様々なイニシアティブ後のコスト削減により、業績はプラスの影響を受けたと推定されている。これらのイニシアティブには、グループの従業員の安全を確保するための新しい働き方が含まれている。これは、コスト削減につながるスマートワーキングの拡張によるものである（例：旅費、イベント費用など）。

さらに、グループの営業外の結果は、1 億ユーロの臨時国際基金の設立、及び COVID-19 緊急事態に対応するために実施された追加の 54 百万ユーロの他の地域のイニシアティブによって影響を受けた。

グループの最終結果は、金融市場のパフォーマンスによって引き起こされた投資に対する 2 億 26 百万ユーロの減損の影響を受けた。

COVID-19 の営業利益への影響については、プレゼンテーション資料に具体的に以下のように示されている。

COVID-19の影響

(単位: 百万ユーロ)

	①2019年 上半期	②2020年 上半期	③ ②-①	④COVID-19 の影響	⑤2020年 上半期(④除き)
グループ全体	2,724	2,714	▲11	▲84	2,797
生命保険	1,611	1,369	▲242	▲225	1,594
損害保険	1,121	1,302	181	87	1,215

また、「今後の見通し」に関しては、例えば以下のように述べられている。

「パンデミックに見舞われた各国による制限措置の段階的な撤廃が予想されるシナリオでは、世界の GDP は今年第 2 四半期に 5% を超える減少という記録的な低水準に達すると予測され、失業率は上昇すると想定される。これらの予測は、経済的及び健康関連の不確実性ととも、貯蓄の傾向が高まり、消費にマイナスの影響を与えている。金融及び税務政策の大幅な後押しは、これらのダイナミクスを軽減するのに役立つかもしれないが、完全に相殺することはできない。

2020 年後半からは緩やかな回復が見込まれるが、シナリオは高度に不透明な状況が続いている。最も大きな問題は、ウイルスの進化と、世界規模で効果的な治療法やワクチンを提供する研究者や政府の能力に関係している。例えば、秋の第 2 の感染症の波は、特に害を及ぼす可能性がある。健康、社会、政治、経済の分野におけるウイルスの影響は、引き続き大きな不確実性を受け、欧州の政治指導者たちは、中央銀行からの大胆な金融刺激策と復興基金の創設を統合して、ECB のイニシアティブを首尾一貫した形で実行した。この基金は、ユーロ圏の安定を保護し、その成長を維持するために、特に周辺国で設計されたため、この地域自体の分散化が進んでいない経済開発計画に貢献している。

このような不確実性の状況は、世界の保険業界への全体的な影響を評価する際に注目すべき困難をもたらす。そのため、Generali グループは、ビジネスミックスと分散化のおかげで、おそらく 2019 年よりは低いとはいえ、2020 年の業績は引き続き回復力があると予測している。

事業運営の観点から見ると、COVID-19 のマクロ経済的影響は、特に旅行保険において、グループの保険料の進展に悪影響を及ぼす。

全体的な請求に関しては、数か月のロックダウンで目撃された減少に続いて、残りの年の不確実性は依然として残っている。第 2 波が発生した場合、グループは有利なビジネスミックスと堅固な契約条件に頼ることができる。」

4 | Aviva

Aviva は、その 2020 年第 2 四半期の業績に関する発表⁵において、その業績に関して「当社の事業は力強くスタートし、COVID-19 はお客様に混乱をもたらした。COVID-19 の影響は広範囲に及び、特にロックダウン措置が最も極端であった第 2 四半期には、多くの市場や商品の新契約に影響を与えた。しかし、当社のデジタル能力、十分に開発された在宅勤務体制、及び顧客や代理店との長期的な関係により、業績への影響は管理可能だった。

COVID-19 はまた、私たちのアプローチを効率化の取り組みに適応させることを求めた。今年予定されていたいくつかのプロジェクトが延期又は中止され、出張などの諸経費が削減された一方で、遠隔地での作業能力を促進するための支出が増加し、コミュニティ支援イニシアティブに 43 百万ポンドを拠出した。通年の結果では、2018 年のベースラインと比較した年間のコスト削減額は、インフレの吸収を含めて 1 億 50 百万ポンドになるとの予測を示した。上半期のトレンドに基づくと、この予測を上回ると予想される。」と述べた。

また、グループの財務状況に関しては、以下のように述べた。

⁵ <https://www.aviva.com/newsroom/news-releases/2020/08/HY2020-results-announcement/>

「当中間期の業績は、保険金請求額の増加、顧客活動レベルの低下、資産価値の低下、オペレーショナル・レディネス及びリスク管理イニシアティブへの追加支出といった COVID-19 の課題を明確に反映している。しかし、この結果は、非常に不確実で混乱が生じていた時期に、当社の事業の基本的な強みと規律ある効果的な対応を示している。

営業利益 12 億 25 百万ポンド（前年同期は 13 億 86 百万ポンド）で、1 株あたりの基本収益は 20.0 ペンス（前年同期は 28.2 ペンス、以下同様）に減少した。損害保険金請求への COVID-19 の影響（▲1 億 65 百万ポンド）を除くと、営業利益は前年比横ばいで、英国の年金は堅調に推移し、カナダの業績は引き続き回復したが、損害保険事業全体で気候関連とコミュニティサポートイニシアチブに関連する追加の支出によって相殺された。」

また「将来の見通し」については、以下のように述べている。

「Aviva は COVID-19 の課題に適切に対応しており、お客様が信頼できるブランド、優れた価値、便利で信頼性の高いサービスを求めるように位置付けられている。ただし、COVID-19 の課題を克服したという幻想はない。私たちはまだ COVID-19 と共生しており、通常への復帰はある程度の道のりを保つ可能性がある。最近の世界的な景気後退は前例のないものであり、世界中の政府による財政対応は並外れたものだった。保護措置が緩和され、政府の支援が撤回されるため、経済的な逆風と資本市場の変動が続く可能性がある。その結果、顧客活動の回復は緩やかになる可能性が高く、当社は事業及び資本リソースの管理に慎重であり続ける。」

5 | Aegon

Aegon は、その 2020 年第 2 四半期の業績発表⁶において、Lard Friese CEO が「2020 年上半期は、当社グループの基礎的収益が 31%減少して 7 億ユーロとなり、厳しい状況だった。米国の収益は金利低下と好ましくない死亡率の影響を受けたが、これは部分的には COVID-19 ウイルスによるものであった。その他の事業は、経費削減に支えられ、好調に推移した。」と述べた。さらに「事業運営の観点から、私たちはパンデミックの余波にうまく対処した。お客様へのサービスは、仮想的なビジネス展開に成功し、お客様やビジネスパートナーをサポートしながら、高いレベルで継続している。私は、このような非日常の時代に、顧客サービスを本当に提供し、それを実証してきた従業員を誇りに思う。商業的には、特に代理店の販売チャネルにおいて、ロックダウンが課題となっている。お客様に最大限のサービスを提供するために、商品ポートフォリオを積極的に管理し、仮想的なビジネスを拡大している。デジタル・ビジネス・モデルは、中国における e コマース・パートナーシップのように、現在の状況でうまくいっている。」と述べた。

COVID-19 の影響については、以下の通りと報告されている。

2020 年第 2 四半期の税引前利益は、前年同期と比較して 31%減少して 7 億ユーロとなったが、これは主に米国での収益の減少によるもので、英国、国際部門、資産管理部門での収益増加によって一部相殺された。

米国の生命保険における高死亡率による影響が 1 億 50 百万ユーロで、そのうち COVID-19 による

⁶ <https://www.aegon.com/contentassets/5ff87ffb6e7745f3a56eef235c6e9285/pr-aegon-1h-2020-results.pdf>

影響が 34 百万ユーロであった。国際部門の税引前基礎利益は 6%増加して 75 百万ユーロとなった。これは、COVID-19 のパンデミック関連のロックアウトによる医療保険請求件数の減少に伴う技術的成果の向上に牽引され、スペインとポルトガルの収益が増加したことを反映している。

資産管理事業は、COVID-19 の大流行による不安定な市場環境の後、高い流入と流出を反映して、外部の第三者による小規模な純流入を経験したが、これは、米国における変額年金及び退職金制度の純流出により一部相殺された。

生命保険新契約の売上高は、COVID-19 のロックダウンと個人向け生命保険市場の撤退の影響を反映して、6%減少して 3 億 79 百万ユーロとなった。傷害・医療保険の新契約保険料は 6%増加して 1 億 24 百万ユーロとなったが、米国での職場チャネルを通じた自発的給付商品の販売の増加とオランダでの就業不能保険販売の増加が、主にスペインとポルトガル及びハンガリーにおける COVID-19 関連のロックアウトによる国際部門の減少によって、部分的に相殺された。損害保険においては、新契約保険料は 9%減少して 59 百万ユーロとなったが、これは主に COVID-19 におけるパンデミック関連のロックアウトが原因の国際業務部門によるものである。

6 | Zurich

Zurich は、その 2020 年第 2 四半期の業績発表⁷において、「COVID-19 の広範な社会的、経済的、財政的影響の中、堅実な半期業績を報告し、グループの商業ビジネスの力強い成長をもたらした。Zurich は、パンデミックへの迅速かつ広範な対応により、顧客と従業員の満足度を高めた。」と述べた。さらに、「事業営業利益 (BOP) は 17 億米ドルで、その他の要因の中で 6 億 86 百万米ドルの COVID-19 の影響⁸を含み、2019 年上半期の 28 億米ドルに対して 40%減少」、「5 月に示されているように、COVID-19 からの請求は 2020 年に 7 億 50 百万米ドルと推定⁹され、上半期に完全に計上された」と報告した。

Mario Greco CEO は「2020 年の前半は前例のない期間であり、世界的なパンデミックや不況から市民の不安や自然災害の発生率の増加に至るまで、予測できない事態が発生した。この文脈では、私たちの優先事項は、お客様、同僚、及び私たちが事業を行っているコミュニティに焦点を当てることである。私たちはお客様へのコミットメントを実現し、保険料割戻しや支払猶予などの幅広い追加サポートと財政的救済を提供した。私たちは同僚を保護するために迅速に動き、早い段階でホームオフィスに切り替え、入院給付を彼らとその家族に提供した。私たちの行動により、顧客と同僚の間で Zurich への信用と信頼が高まったことを嬉しく思う。」と述べた。

なお、7 億 50 百万米ドルと 6 億 86 百万米ドルとの関係や 7 億 50 百万米ドルの事業別や地域別の内訳については、以下のプレゼンテーション資料¹⁰からのスライドに示されている。

⁷ <https://www.zurich.com/en/investor-relations/results-and-reports>

⁸ COVID-19 の発生とそれに続く金融市場のボラティリティに関連し、合理的に帰属及び定量化できる項目を含む。

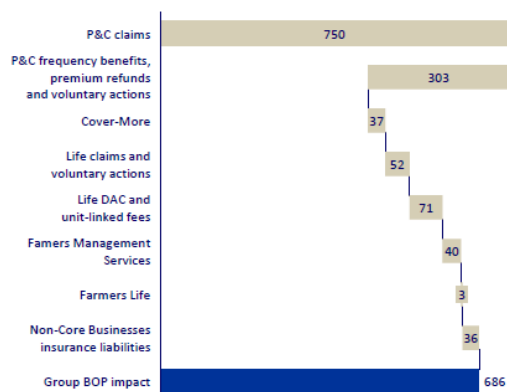
⁹ 現在の評価に基づき、イベントの継続的な性質を考慮してある程度の不確実性を条件とする。

¹⁰ <https://www.zurich.com/-/media/project/zurich/dotcom/investor-relations/docs/results/2020/investor-media-presentation-including-commentary-half-year-results-2020.pdf?la=en&hash=B5AF44B027198EA92FC5D8CB7C60301B>

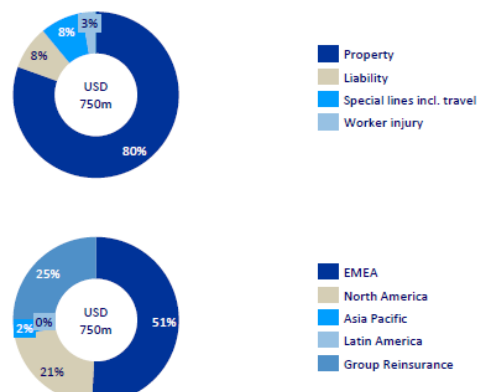
COVID-19 remains an earnings event; P&C claims estimated to be USD 750m¹ for FY-20



HY-20 COVID-19 GROUP BOP IMPACT (USDm)²



HY-20 PROPERTY & CASUALTY CLAIMS



¹ Based on current assessments, subject to some degree of uncertainty considering the continuing nature of the event.
² Not included are either impacts from volume changes or exchange rate movements related to COVID-19 nor other management actions.



3—まとめ

以上、今回のレポートでは、欧州大手保険グループの第2四半期の業績発表の中から、COVID-19の影響等に関する公表内容について報告してきた。

各社の公表内容は、各社各様で、その説明資料等も様々である。

[前回のレポート](#)でも報告したように、各社とも損害保険事業を中心に、第2四半期においてCOVID-19の大きな影響を受けており、第1四半期の業績発表において撤回した年初の収益予想等を引き続き提示していない。また、項目によっては、新たな今後の予測数値を提供しているケースもあるが、これらについても引き続き高い不確実性を有しているとして、それらが達成される上でのリスク等についての説明も行っている。一方で、同時に、これらのCOVID-19の影響にも関わらず、会社の財務状況の堅固さや顧客対応等の業務運営は揺るぎないものである等との声明も公表している。

COVID-19については、いまだ事態が進展中であり、不透明な要素が多い。有効なワクチンが開発され、一般に幅広く普及するまでは引き続き最もホットなテーマであることから、このテーマに関する米国や欧州をはじめとした世界各国の保険会社や監督当局等の動向については、継続的にウォッチしていきたい。

以上